

丸投げ経理（利用方法の説明）その2

経理帳簿作成に全自動の「丸投げ経理」が可能になった

Web 検索には正確に、<https://丸投げ経理.top/> と入力下さい。



全自動の経理帳簿が現場で可能になっている。

社長は何時でも何処でも「クラウド会計ソフト」上で最新の経理帳簿を閲覧できる。

（ネック解消の仕方）

- (1) 領収書読み込み「スキャナ」を使い、クラウド会計ソフト(FM か freee)に繋がれば、自動的に会計帳簿ができる。
 - ① スキャナはヨドバシで5万円前後だせば買える(買い取り)。
 - ② クラウド会計利用料は、年間で数万円を支払う。
- (2) 銀行通帳の「経理処理」は、インターネットバンキング利用で「経理帳簿への自動転記」が可能である。
 - ① インターネットバンキングは銀行に月2千円前後を支払う(ネット銀行なら無料)
 - ② 相性は当社に問い合わせる。

-

（だが、しかし…）

そのスキャナ操作で、領収書を揃えて、スキャナに通す作業がある。

コスパは抜群で、10時間の経理仕訳入力の仕事、1時間も掛からず済ませる。

ど素人 OK だが、1時間もやれば月次作業は済むが、「バカチョン」ギグワークが嫌がられる。機密もあり、経理現場の実務現場では、社長には、頭が痛い「難関」作業なのである。

（だから、）

東証上場会社 MF 社が、確実な「丸投げ経理」手法を低料金で確立した(2024年11月から運営)

(1) 経理書類(領収書等)の流れフロー

- ① 御社は弊社(MF パートナー会員)に、「紙袋詰め込み」領主書等を、宅配する。
- ② 弊社は、領収書等ファイルを検査して、下記「スキャナ・センター」に、宅配する。
- ③ スキャナ・センターでの PDF(クラウド会計ソフト読み込み用)のファイルを作る。
- ④ 弊社がスキャナ・センターから PDF ファイルを受取り、検査して MF 社にネット送信する。
- ⑤ MF 社の会計ソフトが、当 PDF から全自動で「経理帳簿」を作り、弊社にネット送信する。
- ⑥ 弊社は、御社(顧問先)のため、「経理帳簿」の経理検査を指導する(原則無料)。

(2) 流れフローの説明

- ① 御社が、
弊社宛に「紙袋詰め込み」領収書等を、宅配する。

② MF 社の「スキャナ・センター」利用

- (ア) 当センターが、「紙袋詰め込み」の領収書・請求書・契約書等を受け付ける。
- (イ) 当センターが、それら経理書類を整理して、手作業で入力する。
- (ウ) 当経理書類は、MF パートナー会員に返還する。

③ MF 社買収の PDF ファイル作成の会社「ストリームド」利用

- (ア) 当ストリームドが、上記センターからネット送信の PDF ファイル を作成する。
- (イ) MF パートナー会員(弊社ら)が、その PDF ファイルを検査する。

④ 弊社が MF クラウド会計ソフトに送信する

- (ア) MF 社は弊社指示で、弊社の「お客様の経理帳簿」サービスを納品完了する。
- (イ) お客様は「丸投げ経理」サービスで、「経理帳簿(試算表)」をクラウド上に入手する。
- (ウ) その後は、弊社とお客様のコミュニケーションにより「節税」や「税務申告」を行う。

(丸投げ経理の料金)

【概要】

経理一仕訳@100円(小会社なら月 1 万円/年間 12 万円)で経理帳簿ができる(税別)。
※ 月次払いで月次処理(月の最低料金は 1 万円)です(支払方法は弊社と相談)。

【インターネットバンキング利用】

- ※ この利用なら、銀行帳簿を経理帳簿へ転記する仕訳は自社処理のためタダ。
- ※ 尤も銀行通帳の「記帳代行」も上記@100円で可能です。
- ※ 口座別のインターネットバンキングが、経理コスパ上、(殆ど)必須と思います。

※ クレカは、事業の会社名義の登録をお薦めします。

「社長名義」の領収書は、その都度、会社宛て請求書が必要ですので仕訳が増えます。

【MF クラウド会計ソフト】

当 MF ソフトを使う必要がある

※ freee 利用者は弊社に相談のこと

フリーダイヤル 0120-03-6066(窓口案内山本努)